



**地域住民が孤立しない
ネットワークづくりを目指す**

昨年の政権交代は、社会保障の抜本的改革に大きな期待を寄せましたが、後期高齢者医療制度の廃止や障害者自立支援法の応益負担を中途半端に残しています。

また、介護療養病床全廃の方針を継続するなど、私たちが願う、期待した福祉や医療の改革はもはや望めなくなりました。

現在の三田地域は、開発されてから50年近



く経ち、高齢化が著しく、昨年は7名の孤独死がありました。これは、私たちの住んでいるすぐ近くで起きている「現実」であり今後も予想されることでしょう。

2010年初夏号
季刊 No.90

特定非営利活動法人「救世舎」コスモスの家
〒214 0034 川崎市多摩区三田二一五-三
TEL 〇四四一九三一―二四二五 FAX 九三二―二四四



思っております。

★介護保険3事業の持続発展

介護保険3事業の持続発展をするためには、ケアマネージャーがプランを立てます。そのプランに沿ってデイサービスやホームヘルプ派遣、福祉用具利用などが可能になります。介護で困っている方のニーズを掘り起こし、老後の在宅生活が安心して続けられるように利用者に寄り添ったケアを実施します。

★地域住民のニーズを掘り起こし、まちづくりを進める

身近な困りごとは、介護保険制度では対応できないものもあります。

コスモスの家では、

このような「現実」を踏まえ、三田地域において絶対に「孤独死を出さない」「孤立した人を出さない」ことを社会的使命とし、事業展開をしていきたいと

また、コスモスの家の事業だけでは限界があります。

現在、制度外事業として行っている

ふれあいセンター（3面に紹介記事）

やめだかの地域大学、夕食宅配の充実

を図りつつ、他機関などとの連携や新たな住民の参加を通して、地域福祉の仕組みづくりを目指します。

★今後の方向性を臨む

20年史の編集を行います！

コスモスの家の実践活動は、これからの地域福祉を展望する上で大変意義があることだと考えます。民間非営

利組織として、これまで歩んできた20年の到達点を示し、今後の方向性を出したいと考えております。

*記事の内容と写真とは関係ありません。



介護保険制度で安心、

安全の在宅生活を！

ひとり暮らしで、脳梗塞の後遺症があり、思うように動けなくなったAさん。

民生委員や近所のボランティアの人たちのお世話で新しいアパートに引越し、介護認定を受けコスモスの家にケアプラン作成の依頼がありました。週2回、デイサービスに来られ、買物などのヘルパー派遣、ふれあいの夕食宅配のサービス利用でひとり暮らしの日常生活が出来るようになりました。今までなにかとAさんを気遣いお世話しているご近所のボランティアさんはAさんがコスモスの家に通うようになってから「良い顔になった」「部屋もきれいに片付いた」「少々が弱つても閉じこもらないで、同じ年代の人たちと過ごすことが活力を与える」と語っています。(水野記)

★福祉事業者、ケアマネージャー、サービス提供責任者はソーシャルワーカーに！

川崎市の高齢者人口(65歳以上)は年々増え、222,412名となり、介護保険制度を利用している人は34,651名に上り高齢者人口の16%です。



しかし、残りの84%の高齢者の中には、介護保険料を支払っているにも拘らず、制度を知らなかったり、活用してなかったりしています。また、サービス利用料の一部負担が重い低所得者の高齢者は、認定を受けても、利用を控

えている被保険者がいるのが現実です。

40年ぶりに発表された日本の相対貧困率は、15・7%。人口2005万人にあたる6.4人に一人が貧困基準以下の収入で生活していることになりました。こうした人々を対象に、事業者やケアマネージャーは、安心してサービスが受けられる介護保険制度を周知させ、安定した在宅生活ができる活動を進めていかなくてはと思っています。

★介護保険を持続・発展させる「1000万人の輪」に参加して

2012年は、介護保険の見直しと、介護給付見直しによる改正が重なり、実施される年となります。「1000万人の輪」はこの改正に向け、積極的な政策提言と国民の意識を高める運動をしています。この運営委員の一人として、去る5月12日に開かれた政策討論集會に渡辺ひろみ理事長が出席しました。集會には全国から約400人が参加、主催者の一人樋口恵子共同代表(高齢社会をよくする女性の会理事長)は「介護ルネサンスは今日始まった」と高らかに宣言。



討論會は今年3月末に「1000万人の輪」がまとめた「公費負担割合の引き上げ」「介護従事者の年収を450万円以上に」「要介護認定7区分の簡

素化、または廃止」などの提言に各党の議員が見解や決意を述べる形で進行しました。

「子ども手当や公務員制度改革で財源の捻出、要介護認定の簡素化」その他を主張。(みんなの党川田龍平議員)「介護予防は介護保険制度から外し、医療がすべきことを介護に回さなければ財源確保は出来る」(社民党阿部知子議員)「05年の介護保険改正法は不透明だった」(民主党園田康博議員)、「社会保障の伸びを毎年2000億円抑制してきたことは謙虚に反省しないといけない」(自民党



加藤勝信議員)「もはや、公費負担を引き上げないと制度は成り立たない、財源は、企業の法

人税、または軍事費予算を削れば出せる。要介護認定を廃止しケアマネージャーなどに裁量権を与える」(共産党小池晃議員)など。

厚労省政務次官の山井和則は「1000万人の輪のご提言と思いは同じだが、財源確保に苦慮している」と苦しい答弁。

この後、全国から参加した運営委員が壇上に上がり、1000万人の輪の提言を超党派で国会で取り上げ、「言葉」だけで終わるのではなく、施策になるように頑張つてほしいと訴えました。

三田ふれあいセンター コスモスの家



平成15年に開設した「三田ふれあいセンター・コスモスの家」も今年で7年目を迎えます。オープン当時は手探りの状況でしたが、今では地域のみなさんがたくさん来てくださるようになりました。

ここでは、昼食会や健康麻雀クラブ、インターネット広場、ケーキを焼く会などさまざまな活動が行われています。

今回は昼食会と健康麻雀クラブを紹介させていただきます。

昼食会はふれあいセンター発足当時からあるもので、毎週**水曜日午前11時～午後2時**までおしゃべりしながら食事を楽しんでいただきます。この日は初めての方もいらつしやっ



て緊張気味でしたが、アットホームな雰囲気にはほととされたのか、次第に会話にも花が咲きはじめました。



この日のメニュー



「はカレーとサラダと寒天ゼリー。「ごはん、少なめがいい方、手をあげてください」とポランティアの声が聞こえます。食事が済むと今度はみなさんハーモニカを取りだして演奏会に早替わり。

曲目も10曲以上あります。6月にはコスモスの家デイサービスセンターで演奏を披露することので、みなさん練習に励んでおられました。

昼食会の費用は1回五百円。どなたでも参加できます。ハーモニカ演奏会付き（？）お気軽にお越し下さい！

おいしいコーヒーもサービスで付いています！

そして金曜日になると**健康麻雀クラブ**に変わります。このクラブは**午後1時～午後5時**まで。参加費は五百円です。



「(お酒を)飲まない、(煙草を)吸わない、賭けない」健康麻雀クラブは、平成19年から開始、初めの頃は2卓でしたが、今では5卓になり、毎回たくさんの方がいらつしやいます。



「麻雀は頭を使うから、ボケ防止にいいんだよ」

「ルールもやり方も、ちよつとしか知らなかったけどハマりました」とみなさん楽しそうにしていらつしやいました。

時には時間を忘れてしまいそうになるほどヒートアップしてしまうこともありますが、きつちりと午後5時には終わります。

この日は、1卓だけ人数が足りなかったのですが、しばらくして入ってきたのはなんとコスモスの家渡辺ひろみ理事長でした。

「様子を見て来たのかな？」と思いきや、サッと席に着いて牌をかきまぜはじめました。

ポランティアの方が「理事長は、人数が足りないときにはいつも来てもらっているんです

。これがなかなか、お強いですよ」と教えてくれました。

三田ふれあいセンター・コスモスの家は、気軽に参加できる地域のホットスペースとなっています！



え？もしかして、理事長？

(藤井記)





★宮前コスモスの家の今

毎週木曜日のみのデイサービスから、2ヶ月に一度の食事会となつてまる2年となりました。

渡辺理事長が参加された昼食会では、「非営利活動法人とは?」「秋桜舎の中の宮前コスモスの位置とは?」さらに「介護保険制度の疑問点、問題点とは?」「ボランティア活動をしたいがどうすれば?」などなど多岐にわたつての話題に話が弾みました。食事会も地域のボランティアの方々協力もあり、一層楽しい集いとなつてきております。



利用者の作品



★畑で野菜作り!

学校の空き地をお借りして、野菜作りを始めた。作業に先立ち、山口スタッフのお父様が軽い土壌を耕してくださいました。幸い畑仕事はお手のものと頼もしくリードしてくださいました利用者さんも数名いらっしゃいます。2月末ジャガイモの種を植え、その後小松菜やピーマン、いちごと少しずつ増やしていきます。カラスの被害や天候不順で心配しましたが、緑豊かな若葉が出てきて順調に育っています。時々様子を見に行きますが収穫に思いをはせ今日も愛情込めて雑草取りをする利用者さんたち。屈んだ姿勢は腰や足に負担になりはしないかと心配ですが、土に触れることで皆さんとても生き生きとしていらっしゃいました。



利用者さんたち。屈んだ姿勢は腰や足に負担になりはしないかと心配ですが、土に触れることで皆さんとても生き生きとしていらっしゃいました。

●輪になって踊ろう!

今年度、新しい試みとして寺村先生のご指導のもと、民謡の踊りを取り入れています。リズムカルで踊りやすいしあわせ音頭、花笠音頭は「先生のお手製の笠をもつてくるつと回すところがちよつと難しい」と利用者さん思わず唄を口ずさんでしまう「会津磐梯山」などなど。みなさん楽しく踊っている中에서도結構これが足腰のストレッチになっているようです。

